

白ふくろう舎のワークショップ

仮面を作りましょう



46296.com

秋です。仮面を作りましょう





こんにちは。イラストレーターの白ふくろう舎です。ちょっとレトロでキラキラした女の子やお姫様のイラストを描いています。先日、フリーランスの活動10周年を記念して個展を開催したのですが（個展の様子は [こちらの本](#) でどうぞ：宣伝）、その時の展示用の「仮面作り」が思いのほか楽しくて、これでワークショップをやってみたいなと思いました。

ワークショップ。一日でできる、体験教室的なイメージです。

これまで実は、いろいろなイベントで自分が習うことはあっても、こちらから何かを教えたりすることはしていませんでした。なにしろイラスト描きですし、専門教育を受けているわけでもないの、何かひとに教えるようなものをもっていなかったのです。

でも、この仮面は、ちぎった紙をコーティン

グ用のりでペタペタはって、あとは思い思いにデコレイトするだけ。

実は不器用な私でもなんとか形になったし、何より作っている最中がとても楽しかったのです。

これなら、みんなで楽しくできるんじゃないかな？

そう思って、いつもお世話になっている西荻窪のレンタルボックスの草分け、「ニヒル牛」のオーナーさんにお話をもちかけてみたところ、「せっかくだからうちの”宝石店”企画の時のイベントにしましょう」とご快諾いただきました。時期的にもハロウィン前だし、ちょうどいいかも！

白ふくろう舎的 仮面作りのお道具

お店と相談して日程や価格を決めて、チラシを作ってブログやツイッターでも告知して、と意外とやることは多かったのですが、初ワークショップというわりには意外と不安もなくやっていくことができました。私は結構な小心者なので、新しいことをはじめるときはなんでも心配して不安になるのですが、今回は自分で一度作っているし、その時に友達も一緒に手伝ってくれて、なんとなく「はじめてというわけではない」気がしていたからです。



材料は個展用に買い揃えたものがたくさんあります。あとは参加者が多くなった時に困らないように、筆やグルーなどの道具を買い足したりチェックするだけ。

そうそう、基本的な材料はこんな感じです。

☆もととなる白い仮面。今回はバリエーションがでるよう、事前に銀や金のラッカーをふきつけたものも用意しました。☆ベースとなる紙（私のイラストをテキスタイルっぽくプリントしたものの2種。あとはお客様が好きな紙を持ち込む）☆紙を接着し、コートするグルー（のり）。☆仮面そのものに絵を描いたりする画材。アクリル絵の具、ラメ、マニキュアなど。☆リボンやシール、造花、羽、ストーン、ビーズ、スパンコールなど、デコレイトする素材。

そして道具はこれくらい。

☆のり、絵の具用筆を人数分よりちょっと多く。☆筆洗がわりのプラカップ。☆キッチンペーパー、ウエットティッシュなど。☆ハサミ、カッター、セロハンテープ類。☆テグス、ワイヤー、ゴムなど。☆デザインが思いつかないというときのための見本の仮面と、写真をプリントしたカタログ。

ちなみに、実際にやってみて「もってくればよかった！」と思ったのは、せんとくばさみとアクセサリー用ペンチでした。

さて、これらをまとめたら結構な大荷物になりましたが、それでも自転車のカゴにつんで一人で持ち込み可能です。

なんだかこの荷物用に素敵な旅行用トランクかなにかをダンボールでこしらえたいという欲求ももちあがりましたが、なんとなく墓穴をほりそうなので今回は却下。

のりやはさみを入れる「お道具箱」だけ、イラストをはりつけた「姫仕様」にすることで自分的に折り合いをつけることにしました・・・。

そんなことをしているうちに、あっという間に当日です。はてさて、お客様は来てくださるの

でしょうか。

いらっしゃいませ、お客様



ワークショップ当日。開店ちょっと前にお店に到着し、オーナーの「あるさん」と相談しながら机の配置を決めます。思ったより材料で場所をとってしまうし、宝石店や他の買い物をしにきてくださるお客様のじゃまにならないように、と思うと、思いのほか入れる人数は少なそうだけど、まあそんなに人が押しかけることもないでしょう。

そうそう、あるさんはデコレーション用の素材の量にびっくりしていました。「こんなにいろいろ揃えてくれるところはなかなかないよ！」と。そうでしょう、なにしろ一世一代の個展用に気持ちが大きくなっていろいろ買い込んでしまいましたから・・・そして

今しまい場所に困っているわけですから・・・。そんなわけで、今回参加されるお客様は少しだけラッキーなのではないか、と内容ではない部分で自分を安心させます。

ラッキーといえば、時期も時期なので、参加者用に「白ふくろうスペシャル」として、ハロウィンの小さいお菓子を用意しました。これは、お店でワークをする都合上、カフェでワンオーダーしてもらうことも参加の条件になるので、そのお茶にそえてもらおうという魂胆です。お菓子で何とかしようとか、アメで「餌付け」しようとか、こういう女性って年配になるほど多い気がするわ・・・。自分がもう「そういう領域」かと思うと複雑ですが、でも仮面作りなどしてくれるロマンチックなお客様はお菓子だってきっと好きはず。

なんだかんだといってもやはり不安な気持ちをそんなことでごまかしていると、最初のお客様がいらっしゃいました！

長い前書きになりましたが、いよいよワークショップの実況へはいります。



最初のお客様は、なんと大学で「仮面サークル」というものをつくっているというすじがね入り！？の仮面愛好家でした……。 「いえいえ、洒落で作ったんで、別に活動とかはしていないんです！」 そうですか。でも普通の人には洒落で「仮面サークル」など作りませんからね。そんなに恥ずかしくなくてもいいですよ。と早々にうちとけた雰囲気になったまま、ワークショップに突入です。

紙をちぎってのりではるだけ、とはいえ最初のひとちぎり、ひと張りはちょっと緊張するもの。

「やりなおしはいくらでもききますし、むしろ最初にやった部分は隠れちゃいますから、安心してやってください。唯一気をつけなければいけないのは」「いけないのは？」

「……自暴自棄にならないことです！」

そうなのです。ものをつくっていると、大抵いちどは「ああっ、うまくいかない。どうしていいかわからない。もういいや、どうなってもいいや！」と、がっかりついでにすべてのものを台無しにしてしまいたい、という瞬間が必ず1度はおとずれるのです（……私だけですか？）。でも、完成させるためには、そこを乗り越らなくてははいけません。よく言うではありませんか、陶芸家が失敗作を「ガチャーン！」などというのは、テレビドラマ的な演出であって、普通はそんなことをしないと。

とにかく失敗したと思っても、そこでいったん休憩したり、はなれてみたりして、それ以上自分

から壊そうとしないこと。意外とこれが、作品づくりには大事なこともかもしれません。

いよいよ仮面を作りましょう



作業は、和気藹々としつつも程よい緊張感のうちにすすみます。最初はすこしとまどったお客様も、少し紙を張り重ねていくと、すぐコツがわかって、安心してどんどん続けていけるようになります。

「これ、楽しい～！没頭しますね」

そうでしょうそうでしょう。しかしここで痛恨のミスが発覚！

アクリル絵の具の黒を、持ってくるのを忘れてしまったのです・・・！

よりもよって黒、一番需要の高そうな色。大きなチューブを用意したのに。でも、お店のマジックをかりてぬっていただいたところ、コーティング剤がかえて色ののりをよくしたらしく、きれいに塗れるということで一安心。臨機応変に、そしてイライラすることなく受け入れてくださったお客様に感謝です。

さて、もうおひとかた、予約してくださったお客様もいらっしゃいました。

予約までして来てくださるなんて、もう本当にうれしいのです。デザインがきまらない、どうしよう...とカタログをめくっていらっしゃいましたが、ブルーのほうのイラストを手に取り、いよいよ着手。

これがおもしろいほど、前のお客様とは対照的な色使いになっていって、みているだけでも楽しいです。

「こちらがアラビア風なら、こちらはフランス風みたい」

買い物にきたお客様まで、楽しげにのぞきこんでは感想をあれこれいっていかれます。

そう、人がものをつくっているところって、みているだけでも楽しいんですよね！

どうですか、お客様？

鼻の脇にオヒゲをつけてみたりと、何かと「面白いこと」をしたがる仮面サークルのお客様。でもそれがむしろセンスよい「遊び」になっていくのがとても新鮮で、見物しているギャラリーもみんな「いいねえ」と言っていわれます。黒と金で、シックにまとまったなあとおもっていたら、「ここにトンカツのキャベツみたいに、いろいろ盛りつけたいんです」と。

え、そうなの！？と思いましたが、意外となんでも吸収してしまうのが仮面のおもしろいところですし、なによりこの発想、やってみたいと思ったものをとことんまでやること、を推したい。どうぞどうぞ、おもいきりやってください。

その間もまわりでは、他のお客様たちが仮面をつけたり写真をとったりしてなかなかのにぎわい。スタイリッシュな女性が仮面をつけてみると、なかなかモダンな写真ではありませんか。

そして「フランス風」といわれていた予約のお客様、こちらはこちらでコーティングした紙の上に、さらに繊細なレース模様が描かれています。すごい！どちらも豪華なのですが、個性っていうのはこういうものかしら、同じところから材料を選んで、同じ仮面をみてイメージをふくらませているのに、不思議な気持ちさえしてきます。さて、そんなお二人の仮面、どんな風にできあがったか見てみたいでしょう？どうぞ！



アラビア風仮面？



「トンカツに添えるキャベツ」なんてデコレーションを形容するような、独創的な彼女の仮面は、でも思いのほかまとまりがよい、豪華でいかにもパーティーにつけたくなるような仕上がり。ヒゲ模様とリンクさせたスパンコールのカールや、黒と金と白のバランス、羽の傾け具合でボリュームの均等もとれていて、はじめてとは思えない完成度の高さです。是非サークル活動にはこの「マイ仮面」を持参してくださいね！

美しい道化師のような仮面



最初は「繊細でふんわり」した仮面になるかと思ったこちらは、細かなレース模様と黒のラメのエナメルを流し込んだり、アクセントの模様が加わったりして、どんどん印象がモダンできりっとしてきました。写真では細かく見られないのがとても残念ですが、模様のひとつひとつが本当に繊細で美しいのです。なみだのひとしずくのように青いストーンをつけたら、ちょっと道化師のような、物語性のある仮面になりました。こちらも素晴らしいと思いませんか？



さて、1日3回という予定のワークショップでしたが、どうやらそんなに回転をよくできそうにありません。やっぱりじっくり、満足いくまで作っていただきたいし、横から講師がまぜっかえしたりで「早く終わらせよう」という意思を感じられないのも問題です。...

というわけで、お客様がいらっしゃったら随時スペースを確保してはじめていただく感じになったのですが、それでも皆さん時間をみはからってきてくださるので、だいたい「第一陣、第二陣」というわかれかたにはなりました。

そして第二陣のお客様たちは、それぞれ「マイペーパー」「マイ材料」持込です！

おお、やる気を感じられるかたがたを前に、うまく彼女たちの思い描く仮面をつくっていただくことはできるでしょうか？

ちなみに当日は写真のように「頭に仮面をのせてみた」のですが、なんだか自分もお客様もあるさんも、すぐになれてしまって違和感がありませんでした・・・。



マイペーパー、マイ材料。お客様はどんなものを持ち込まれたのか。

お友達にもらったプレゼントの包装紙、セピアがきれいな五線譜の柄だったり、チュールレースだったり。かたや、包帯にアンゼンピン、唐草模様のペーパーナプキンだったり。なんとなく、持ち込んだものからも世界が垣間見えるようなものたち。



イメージがある程度かたまっているお客様には、こちらが特に何か伝えることはありません。「ここにレースをつかいたいけど、どうしよう」と迷った時に、一緒に考えて道具を探したり、うまく固定する方法を考えたり、やまほどある素材からつかえそうなものをピックアップしてまた発想をひろげてもらったり。

おしゃべりしながらやりたい人も、黙々と作業を進めたい人も、作りたいもの同様、取り組み方もひとそれぞれ。

「せっかくのバラをこんな風にしちゃって」と、はなびらをバラして鱗のようにしきつめてみたり、仮面の目の穴を造花でふさいでみたり・・・。

こちらが驚嘆するようなアイデアや技術がくりだされて、もう口をあけてみまもるばかりです。

ああ、ワークショップって、こんなに楽しいんだ！作る側でなく、見ている私が実は一番面白いのかもしれない。



もしかして、禁断の扉をあけてしまったのかも、と思った瞬間でした。

では、あとはもう余計な説明は不要と思われるので、作品（と、にわかモデルの方々）を、どうぞお楽しみください。







しっかりした紙の質に最初は少しとまどわれたようですが、すぐコツをつかみ、またはじめはおそるおそる要素を足していたのがそのうち「もっとメリハリが欲しい」と華麗にいろいろなものが増えていく様子は、とても見ていて楽しかったです。仕上がりはウィーンのおみやげといっても通りそうなできばえ。チュールのとめつけにもちょっと苦労しましたが、お店の裁縫道具や他のお客様のマイペンチ、クリップなどに助けられ、うまくいきました。今にも歌が聞こえてきそうです！



・・・そりゃあ、講師だって「つけさせてー」とねだりたくなるものです。ほほほ、ほ・・・。

ゴシックな仮面





確固とした世界を持ち、他に惑わされず（でも一番皆に頼りにされていた）、黙々と作業を続けられる姿が印象的でした。仮面の穴はどちらもふさがれて、ほとんど向こうが見えない、というのも非常に魅力的。虫ピンなど、一步間違えばグロテスクになりそうな素材が、上品なデザインや緻密な技術で、嫌悪感をよばない美しさにまとめられているところに、いかにも作家さんだなあという印象をもちました。このまま何かの表紙などになってもおかしくない仮面ですよ。ブラボー！



オーナーのあるさんだっにかぶってみたい！

「向こうは見えないけどね」。

そしてニヒル牛作家さんの洋服やアクセサリと相性がいいのにも驚きです。



実はこの写真、まだ完成ではありません。ここからさらにもうひとつ飾りがはいたのですが、なにしろこの薔薇の花びらのうろこ（羽のようにもみえます）の作りこみに時間がかかり、撮影の時間があまりとれなかったのです。それにしても発想といい、できあがりの吸引力といい、この独創性と魅力には皆くぎづけです。質感とバランスの対比もよく、かぶったときに見る方向で違う印象になるのも素敵です。お買い物にいらしたお客様が撮った写真を送ってね、とおっしゃる気持ちもよくわかります。お見事です！





あなたも仮面を作りましょう！



いかがでしたか、白ふくろう舎のワークショップ「仮面を作りましょう」。

「こんなすごいもの、私にはムリ」と思われるかたが大半ではないでしょうか。でも、ほとんどのかたが「仮面づくりははじめて」でしたし、なにより「絵心がなくても大丈夫」というのが売り文句だったので。

とはいえ、私も予想外のすごい作品ができてしまって、正直「私の作った見本が一番素敵じゃない・・・」としょんぼりしてしまったのですが、むしろこのハードルの低さが皆さんを怖がらせずにすんだのだ！と思うことにしています。

まわりのお客様にまで「ほら、見本はベーシックなものの方がいいじゃない」となぐさめられる始末でしたから、どなたも自信を持って参加されていていいですよ！

などといつつ、次の機会があるのかどうかはわかりません。こういうチャンスも一期一会、だからこそ楽しいのかもしれません。それにしても、皆がものをつくる場を提供し、それを手助けすること（できたかどうかは別として）というのがこんなに楽しいものとは、正直思いませんでした。これまで「講師」とか「教える」ことからは逃げ回ってきたのですが、なるほどこれが醍醐味なんだと思いました。

そして、この記録が、またどなたかの創作意欲を刺激して、世の中に「作る喜び」や「きれいなもの」があふれる一助になれば、本当に幸せです。ご協力いただいた皆様、そしてここまで読んでくださった皆様、本当にありがとうございました。

また、どこかでお目にかかりましょう！

[白ふくろう舎 オフィシャルサイト](#)

[白ふくろう舎ブログ](#)

[ニヒル牛サイト](#)

[ニヒル牛マガジン](#)

*すべての画像、作品には製作者やモデルの著作権、肖像権が発生します。文責は白ふくろう舎です。ご理解の上、閲覧をお願いいたします。ありがとうございました！